



【 優しさ・最上級生としての頼もしさ 】

○ 先日、ある方から嬉しい話を聞きました。概要は、次のとおりです。

井波っ子6年生のすてきな姿を見たので、お伝えします。昨日の朝、登校中に、転んで足を擦りむいた下級生がいました。すると、6年生のA君がその下級生をおんぶして学校まで連れていきました。また、同じ6年生のB君とC君が、A君と下級生のランドセルをそれぞれ運んで登校しました。6年生の下級生への優しさと、最上級生としての頼もしさを感じました。

○ 上級生がけがした下級生をおんぶして学校まで連れて来る行為、そしてその行為を支えるために、ランドセルを持っていてあげる行為。このような行為を、長い教員生活の中で初めて聞きました。見事です。その出来事を金曜日のお昼の放送のときに、全校に伝えました。今後、多くの子供たちが仲間への優しさを行為として表すよう、期待すると同時に、指導していきます。



【 「聴く」の指導 】

○ 井波小学校では、「**未来を拓く井波っ子**」の育成を目指すために、昨年度から、「**聴く**」ことについて力を入れて指導をしています。「**他を契機に自己を見つめる**」ためには、**相手の考えや取組を聴くことが、「契機」になる**という教育観です。



○ 指導とは、**質と形**があります。質については、後日、お知らせします。

○ 形については、「昨年度の重点目標」が「相手に体を向けて話を聴く」でした。それは、今年度も継続して取り組んでいます。写真のような学級は、幾つもあります。このような聴き手がいると、話し手は話しやすいので、**相乗効果**が生まれます。